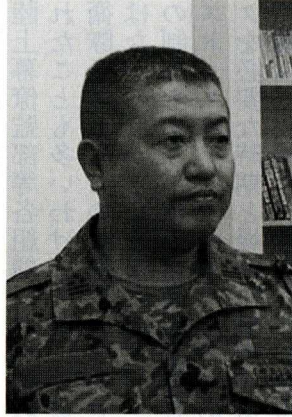


冷たい水の中を ふるえながら のぼってゆけ！

壁にぶち当たっている若い小隊長達へ



第12施設群長
兼ねて
岩見沢駐屯地司令
1等陸佐
末廣和祥

一 はじめに

修親刊行事務局から、初級幹部の人たちのために何か書くように依頼があった。他人に披露するような見識など持ち合わせていないので断ろうかと思った。しかし、昨今、途中で挫折するBUの幹部が多いこともあり、若い頃、悪戦苦闘していた自分でもお役にたてればと思ひ承諾した。本稿の内容は、多くの

人にとっては当てはまらないし、釈迦に説法かもしれないが、逆境に身を置き悩んでいる不器用な若者のために愚見を呈する。但し、あまり具体的に記述するとなにかと周囲に迷惑を及ぼす可能性もあるので抽象的表現になるがご容赦願いたい。

二 試行錯誤の初級幹部時代

部隊尺度を与え幹部としての基礎を確立してくれたのは、最初に配置された第一施設大隊だ。母なる部隊に感謝である。しかし、幹候、BOCとあまり芳しくない成績、不器用な上、人間関係が不得手な自分は小隊長時代孤立し日々もがいていた。組織というものは、誰かが底辺に位置し批判や嘲笑の対象になっていけば安定する。全ての不具合事項の原因をそこに帰結することができ、他の者は免責されるからである。当時、非力な自分は部隊でそういう底辺の立場であった。

自分はその立場に納得できず、現状変更のため必死で試行錯誤を繰り返した。実力をつけるため、生活の全てを仕事中心にした。課業内は小隊長として隊員と訓練に励み、訓練幹部としての諸調整に従事し、宵の口は服務指導、夜になって実務という生活だった。納得しないことは上にも横にも理詰めで反論し意志を通した。その準備で徹夜したこともあった。利害を共有する中隊内では概ね歓迎されたが、それ以外では常に軋轢が生

